

第2回講座

自然を見てみよう!

2016パークレンジャー養成基礎研修

2016/4/24

NPO法人日本パークレンジャー協会



1. (自然)観察とは

(物事の)「本質・真理」をみて「見抜く(見通す)」

「見る」:眺める、目で存在をとらえる、視覚に入れてみる

「視る」:視覚に入れてみる

「観る」:真理を見る、道理をみる

「診る」:診断する

「看る」:ことにあたる、面倒をみる、

2. 五感で(自然を)感じる

1) 五官 : 人間が持つ五つの感覚器官

目、耳、鼻、舌、皮膚

2) 五感 : 五官の持つ情報感覚

視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚

- * 動物(人)は相手(対象)が何であるか知ろうとする時
自らの五感をフルに働かせてそれを確認しようとする
- 五感で感じて自然を見れば 知識ではなく 体でその
もの知ることができる

Sense of Wonder : Rachel Carson

「自然の神秘さや不思議さに目を見張る感性」

五感で感じて体で覚えたことは記憶に残る

3. (森の)自然を見る

1) 遠くから(森)全体を見る

- * どんな地形? どんな色? 形の違い、樹種など…
- * 森の歴史 (森の深さや構成、枯れているもの…)
- * 周囲の様子 (鳥や獣の気配 声 音…)

2) 近づいて見る

- * 近づくことで見えてくるもの、見えなくなるもの
- * 木の階層 (高木、次に高い木 低木、下生え…)
- * 木の種類、肌、葉、花、実、コケ、動物(野鳥や昆虫など)…
- * 匂い 音 触った感じ、湿気・乾き…

3) 上下も見る

- * 上を見る (空の色、雲、木の枝の張り方や形)
- * 下を見てみる (落ち葉、木の実、腐葉、キノコ、生きもの)

4) 落ち葉の下を見る (枯葉の色・形・手触り・匂い・湿り・生きもの)

全体を見る 細部を見る

4. 色々な自然の見方

- 1) 全体構造を見る(絵に書いてみる)
- 2) 近づいてみる(左右上下)
- 3) 五感を使う(見る、聞く、匂う、味わう、触ってみる)
- 4) 目の位置を変えてみる(座る、腹ばい、仰向いてみる)
- 5) ルーペで大きくしてみる
- 6) 言葉で書いてみる(詩や俳句、歌)
- 7) 観察したことを分かち合う(1人の目より多くの目)
- 8) 名前にこだわらない

見方を変えると色々な自然が見えてくる

5. 何のために自然観察をするのか？

■ 自然を見る楽しみ

読書や音楽鑑賞などと同じ、自然の景色や草木の花、実、紅葉など美しさに触れ自然の不思議や面白さを知る喜び

■ 自然を知る

自然に親しむ(楽しむ)ことを通じて自然を理解する

■ 自然観察の道は様々な分野に通じている

科学・音楽・絵画・文学・工業・環境・多様なものの見方

■ 自然が人を育てる

自然に命を見る、畏れや尊敬、冒険・恐怖、故郷...

6. 自然の観察で伝えたいこと

- *自然の不思議や面白さを五感で感じてもらう
- *自然の仕組みや人と自然の関係を伝える
- *自然の知識を伝えるのではなく考え方を伝える
(植物などの名前にはこだわらない…)

人は自然の美しさや、不思議さや面白さを発見したり
楽しい経験をすることをくり返して自然のことを知る

そして自然が自分の身の回りにあることを実感できるよう
になって始めてその大切さに気づき守ろうと言う気になる

自然に親しむ → 自然を知る → 大切にできるようになる

メモ